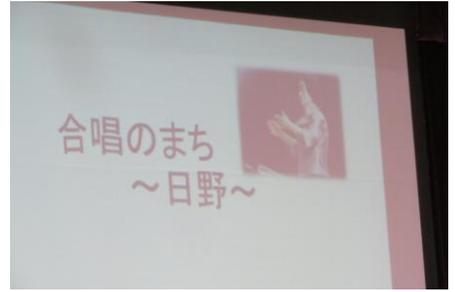


5月11日(火)「日野の誇り」を受け継ごう

合唱コンクールを1か月後に控え、その事前学習として、「合唱のまち 日野」について学習しました。本校の卒業生で、音楽部の一員として活躍された南比都佐小学校校長の山本先生をお迎えして、日野の合唱の歴史をお話いただきました。



まず、日野中学校の合唱の歴史についてお話いただきました。1971年、以前あった日野北中学校、日野東中学校、日野西中学校、3つの中学校が統合され、今の日野中学校になりました。それ以前に日野西中学校で音楽部ができたそうです。当時その音楽部を指導されていたのが、菱川きよみ先生。この先生の存在なくして、今の「合唱の町 日野」はなかったというお話でした。



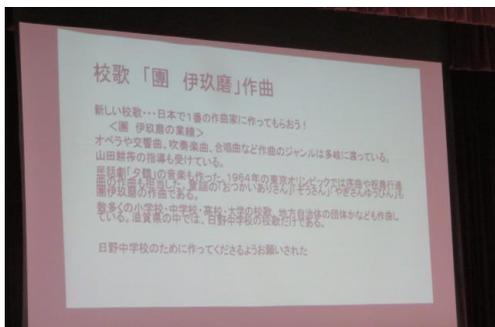
3つの学校が統合した当時は、どこか生徒の間にギスギスした雰囲気があったようで、それを「合唱で何とかしよう」と呼びかけられたそうです。3つの中学校が統合することで音楽部の部員も100人を超える時期もあり、いろんなコンクールに出場する中で、素晴らしい結果を収めることができたそうです。校内の合唱コンクールも開催に二の足を踏んでいる中学校が多かったなか、いち早くその取組を始められ、学校づくりに大きな影響を与えた

そうです。

その日野中学校を卒業した生徒や合唱に興味がある人たちが参加する多くの合唱団が日野町にあり、年に一度すべての合唱団が集まる演奏会が町で持たれています。また、卒業生が指導する少年少女の合唱団もあり、「合唱のまち 日野」と呼ばれるまでになってきました。



また、日野中学校の校歌も大切な役割を果たしているそうです。團伊玖磨さんという名前を聞かれたことがあると思いますが、1964年の東京オリンピックの音楽や皆さんがよく



知っている童謡「ぞうさん」などの作曲をされた方です。当時の校長先生が「日本で一番有名な作曲家は誰や」と菱川先生に尋ねられたところ、團さんの名前が上がり、校歌の作曲を依頼されたそうです。

このように「日本一の作曲家」がつくった校歌ということで、日野中学校の生徒の自慢になったことは間違いないと思います。

「合唱のまち 日野」と呼ばれるようになったことに、私たちの学校、日野中学校が大きな役割を果たしました。このことは、まさに本校の「誇り」だと思います。この「誇り」を受け継げるよう、これからの合唱の取組を充実させ、6月11日の合唱コンクールには、素晴らしい歌声をお願いします。